広報伊方町

発行所 愛媛県西宇和郡伊方町
編集 伊方町町民室
印刷所 尾上印刷所 八幡浜市天神通 電話 ㊀0091番

原電誘致対策委員会が発足

誘致体制を確立

原子力発電所誘致については、先月号広報であらまし掲載いたしましたが、このたび誘致に対する地元体制として原子力発電所誘致対策委員会が発足しました。

この委員会は、八月十二日午後一時から伊方小学校講堂において開催され、原子力発電所の誘致と建設に伴う、あらゆる諸問題について対策を講じ、住民の生活を安定せしめ、原子力発電所建設を促進するために発足したものです。

当日は、町長のあいさつにつづいて竹場町議会議長を座長として竹場町議会議長、農業協同組合長、漁業協同組合長、婦人会長、青年団協議会長、消防団長、商工会長、地主代表が行なわれました。

委員会は、町三役（町長、助役、収入役）、町議会議員、部落区長、農業協同組合長、漁業協同組合長、教育委員会委員、地主代表、森林組合長、婦人代表、青年代表、民生委員総務、商工会代表、消防団長、町内医師、小中学校長、八西建設協会伊方支部長、西宇和砂利組合長の九十六人からなり、この委員会の中に、役員として会長一人、副会長二人、理事若干名を置き、理事の構成は、町長、議長、教育長、農業協同組合長、漁業協同組合長、婦人会長、青年団協議会長、消防団長、商工会長、地主代表が役員選任の結果これにあたります。

会長 山本 長松（町長）
副会長 竹場 兼男（議長）
〃 井田与之平（地主代表）

（敬称略）

が選任されました。

役員の任期は、二年間です。

これで、原電建設誘致に最も大切な地元の誘致体制が確立されたわけです。

原子力発電所誘致対策委員会が発足し誘致に対しここに本格的な大車輪がまわり始めました

内田教授（東京大学）らを招き

原子力講演会開く

町原子力発電所誘致対策委員会では、きびしい過疎現象の波を克服し、町内産業の振興を促進し、町民生活の向上をはかることを目的として、町内九町越地区に原子力発電所を誘致するため、諸般の運動を展開しています。

そこで、原子力発電とはどんなものか、果して安全なのか、町民のみなさんの耳で直接確かめ、理解を深めてもらうため原子力講演会を八月二十四日伊方中学校体育館、九町小学校屋内体育館の二会場で開催されました。

両会場あわせて約三〇〇人が集まり、いま話題の原子力発電問題だけに中央より迎えた各講師の講義に真剣な表情で耳をかたむけられ、なかには熱心にメモをする人の姿もありました。

講演は

◎原子力発電とその安全性
東京大学工学部教授
内田 秀 雄氏

◎環境（特に海洋）放射能管理について
放射線医学総合研究所
東海支所臨海実験場長
佐伯 誠 道氏

◎原子力施設の放射線安全管理について
日本原子力研究所東海研究所
保健物理安全管理部調査役
丸山 吉 三氏

それぞれ原子力の権威者三人を招き、自分の専門分野をスライドやグラフ、図面によって解説され、原子力発電所がいかに安全であるか、また放射線が生活環境におよぼす影響、原子力施設そのものの安全管理などについての講演がありました。

また、誘致する町の立場を「原子力発電所を何故誘致するか」と題して山本町長が、誘致に踏み切るまでの経過と今後の方針などについて講演があり、原子力発電所誘致に対して地元である町民の深い理解と協力を呼びかけました。

〃盛会だった原子力展〃

原子炉模型に関心

原子力講演会と同時に原子力展も開かれ、八月二十四日の九町小学校会場（二十四、二十五日）を皮切りに二見小学校会場（二十六、二十七日）ついで伊方小学校会場（二十八、二十九、三十日）の三つの会場（七日間）にわかれ行なわれました。

原子力展は、四国電力の協力をえて行なわれたもので、会場には原子炉の模型や、本物のウラン鉱石などを並べた原子燃料サイクルパネル式展示物が数多く展示され子供から老人まで物めずらしさも手つだって町民の人気を集めました。

出展された原子炉模型は、沸とう水型（BWR）と加圧水型（PWR）の二種類を展示し、重さ約二五〇キロ、高さ二メートル、幅二・五メートルの原子炉の断面で同時に録音テープから流れる原子炉模型の構造の解説は、見物者の関心を深めました。

製作費一点が二五〇万円で、原子炉模型二点と原子燃料サイクルを合わせて七一〇万円という高価なものであり、二百ボルトの電流によって冷却水の流動状態がひと目でわかる仕組みになっており、それと

いろいろな原子力発電

加圧水型（PWR）原子力発電のしくみ

原子炉は厚い鋼板で筒状につくってあり、この中を高圧の水が循環しています。

炉内で熱湯となった水は蒸気発生器に送られ、ここで別の水を蒸気にかえ、その蒸気でタービンを回して電気を起こします。

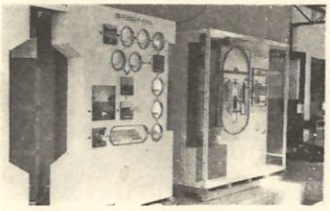
この型は、水に高い圧力を加えていて、炉内で直接蒸気をつくるのです。

沸とう水型（BWR）原子力発電のしくみ

原子炉は厚い鋼板で筒状につくってあり、この中で直接水を沸とうさせて蒸気をつくります。

炉内で発生した蒸気は直接タービンに送られ電気を起こします。

この型は、蒸気発生器を使わないで、炉内で直接蒸気をつくるのです。



人気を集めた原子炉模型と原子燃料サイクル

第1回伊方夏期大学

熱心に600人が受講

町主催による第一回伊方夏期大学が八月三十日伊方中学校体育館と九町小学校屋内体育館の二会場にわかれ開催され、つづいて県青果連参事渡辺衛氏による〃果樹農業の将来〃という演題で夏柑の暴落対策や、ミカン約六百人が夏柑に一大脅威を与える果実の貿易自由化問題など、いま各農家がいたしました熱心に受講し、真剣に考え、直接生活に響く問題を受講。

また、前農林省放射線育種場長河原清氏の〃放射線の農業利用〃について放射線照射を利用しての各種農作物の品種改良などを16ミリ映画、スライドで農業部門において放射線利用の研究状況をみて現在、タマネギの発芽防止などにすでに利用されており、こんごますますあらゆる作物に放射線利用の研究が進められていくことを学びました。

ついで、松山商科大学教授井上幸一氏（保内町出身）の〃消費生活の合理化と生活設計〃と題して消費者側に立って消費者の盲点とこんごの生活設計のあり方についてユーモアをまじえての講演。

いま町が、大きな事業として取り組んでいる原子力発電誘致問題を山本町長より〃原子力発電所の誘致について〃と題し、本町に何故原子力発電所を誘致するのか、また、いままでの誘致のあらまし原子力発電の公害問題、こんごの運動展開方針について講演があり誘致する地元として町民の協力体制をよびかけました。

以上がだいたいの講演内容ですが、昼食の時間には、伊方中会場ではアトラクションとして伊方中学校生徒のブラスバンドと伊方小学校児童による鼓笛隊の演奏。

九町小会場でも町見中学校生徒のブラスバンドの演奏があり楽しい一時間をすごしました。

普通大学を卒業するには、四年かかりますが、本町の夏期大学は一日で卒業というスピードぶりでした。

国保健康優良家庭表彰

◎中之浜 木下 綱雄
◎仁田之浜 田上マキ子 亀井 筑春
◎河内 吉原 光吉 渡辺 品一 吉原シズヱ
藤堂 高蔵 藤堂フシヱ
◎湊浦 梶谷 花子
◎小浦 井上 経広
◎中浦 渡辺マスミ 井上カシク
◎川永田 初山 力子 篠沢 浩 増田ツタヱ
清水 トメ 菊池 フジ
金村清衛 宇都宮シズカ
阿部 安清
◎川永田二 藤村 義光 浅倉スミヱ
◎豊之浦 谷口千代恵
◎亀浦 宮内 秀吉
影山 啓一 大沼ヒサノ
◎奥水上 好松
大山タノヨ
◎向 明神浜太郎
◎畑 得能 繁政
畑木 ムヨ 田村与三一 田村トメ子
◎須賀 田口 頼道
◎久保 桝田ユキヨ
西田 勝利 菊池称寿子
奥野古太郎
◎西見 道上スガ 金山イシ
◎加周 二宮 敏行
◎田之浦 吉田 イワ
◎古屋敷 細川 ヒサ
浜岡宇太郎 永井ヒサヱ
辻本 照道
◎大成 二宮 松緑
高岳岩太郎 塩崎 頼兼
塩崎キクヨ 木村 安一
上田サト子

平和への願いこめ

おごそかに戦没者慰霊祭

八月十五日は終戦記念日、ことしで二十四回を数えるにいたりました。

すくる大戦における三〇万人の戦没者の霊をなぐさめる全国戦没者追悼式が、本年も例年のとおり政府主催のもとで、東京九段の靖国神社ほか近い日本武道館で天皇、皇后両陛下をお迎えして全国から遺族代表が参列して行なわれました。

本町でも同日、伊方遺族会主催によって八幡神社境内の忠霊塔前において町長、町議会議長、議員、医師会長、軍恩連伊方支部長ら来賓多数が出席し、伊方地区の遺族一〇三人がつどい、神事、追悼の祭、玉串奉典、昇神の儀がとり行なわれ三〇柱の霊をなぐさめる慰霊祭がおごそかに行なわれました。

おごそかな慰霊祭風景

当日は、各家庭では平和をかかげ、正午には、それぞれの職場、家庭においてサイレンを合図に一分間の黙とうをささげ平和への誓いを新たにしました。

全世界の人々の願いにもかかわらず世界の各所では、武力衝突があとをたたず痛ましい惨事がくり広げられていることはまことに残念なことです。

平和な家庭、平和な生活、平和な世界、これこそわたしたちが望むものです。

もうこの人類地上に二度と戦争という人間が人間を血であらうおろそかなまねはやめ、全世界の人々が平和への願いを深めましょう。

ことしは台風の当り年か？

ことしは「台風の五年周期」に当たっており、過去の統計が心配になります。

日本は五年に二度は台風によって大被害を受けています。

代表的なものとしては、世界第二の海難事故をおこした昭和二十九年九月二十六日の「洞爺丸台風」。

昭和三十四年九月二十六日の史上最大の被害をだした「伊勢湾台風」の猛烈な暴風。

昭和三十五年九月二十四日に奄美、児島に上陸して死者五十一人をだした「第二十号台風」。

などがあげられます。

ことしは、その五年目に当たっていて、しかも異常続きの気象状況で、北陸豪雨、北海道大冷害などがあった三十九年の気象に似ているということであります。

さらに、太陽の黒点活動の周期ばかりでなく、世界的に異常気象といわれています。

太陽活動と結びつけた台風の周期は、利根川に大洪水をおこした昭和二十三年九月十六日の「アイオン台風」、伊豆の温泉地をなめつくした昭和三十九年九月二十六日の「狩野川台風」がこれに当たります。

昨年が黒点活動の拡大年だったので、本年は当たり年になるわけです。

このような周期ばかりはずしも当たるとは限りませんが、ともかく、各家庭では、平和な家庭、平和な生活、平和な世界、これこそわたしたちが望むものです。

もうこの人類地上に二度と戦争という人間が人間を血であらうおろそかなまねはやめ、全世界の人々が平和への願いを深めましょう。

消防操法競技大会

第十四分団が四度目の栄冠

伊方町消防団（松田文治郎団長）では、実戦に即応する規律ある消防活動を練磨して団体行動を統率強正するため第八回消防操法競技大会が八月二十五日伊方中学校グランドで行なわれました。

自動車ポンプ、可搬動力ポンプ二十一分団が出場参加し、日頃の訓練状況を披露し盛大でした。

とくに本年は、第三分団（仁田之浜）の女子消防隊が初参加し、異色の存在として大会に花をそえテキパキとした観覧は来賓に好感を与えました。

本年の場合、どのチームも技術向上がいちじるしく実力接近が目立ち、伊方町消防団の面目を躍如たる発揮しました。

なく発揮しましたことはまことに喜ばしいことです。

大会は審査員をもうけ操法の要領、操作の巧拙や動作を厳正中立な立場で採点の結果、五人の呼吸がピッタリ合った第十四分団（東）が、八回を数える大会のうち四度目の栄冠に輝く偉業をなしとげ、大会長（町長）より優勝旗が授与されました。

大会成績は、つぎのとおりです。

優勝	第十四分団（東）
二位	第六分団（小中浦）
三位	第十五分団（西）
四位	第八分団（川永田）
五位	第二分団（中之浜）

台風シーズンに備える

◎台風情報が出されるようになったら

一、家の周囲を見廻って下水はけをよくしておきましょう。

一、風根やベイの補修をしておき風でとばされやすいものは片づけておきましょう。

一、海や山への散行は早めに中止しましょう。

一、海や川の近くに住んでいる人は、遊覧場所や遠足を控かめ、家族全員に徹底させておきましょう。

◎台風の来襲が確実になったら

一、ラジオやテレビの台風情報に注意しましょう。

一、高潮などのおそれのある海岸や低地に住んでいる人は、早めに避難の準備をしましょう。

一、懐中電灯、ローソク、マッチ応急医薬品、トランジスターラジオなどを準備しておくことが大切です。

また、現金、通帳、印かんなどは、肌身につけておきましょう。

◎台風が通過したら

一、たれさがっている電線には決して手を触れないで、直ちに電力会社へ連絡しましょう。

一、浸水地域では伝染病の発生が予想されます。消毒、乾燥および前制に心がけましょう。

一、海岸沿いや川沿いの道路は、下の土が洗い流されています。自動車の運転にはじゅうぶん注意しましょう。

たばこは町内で買いましょう

ことし町の財源へ入ってくる、たばこ消費税は約五四六万円を算化されており町の大きな財源になっています。たばこはぜひ町内で！

人権擁護委員に田縁さん

八月一日付で、法務大臣より川永田の田縁筆一郎さんが当町の人権擁護委員に委嘱されました。

公務員による不当な圧迫、村八分、強制圧迫、差別待遇、名誉信用侵害、借地、借家問題、家庭問題で悩んでいる人、困っている人の相談に乗ってもらえますから、お気軽にご相談ください。

なお、相談は無料で、秘密は固く守ってもらえます。

医学豆知識

◇ネクタイ

ビジネスマンのシンボルみたいなネクタイも、保健上は不利だという説。

何しろ人によっては、ワイシャツがきつい上にネクタイをきっちりしめるので、首の部分の血行がかなりさまたげられます。

したがって高血圧の影響として頭痛、めまい、肩こりが起りやすく、冬場はエリ首から熱が逃げなくていいかわりに、視界による汚染空気での不快感が、ひどくなりやすい欠点もあります。

さらに、視力にも影響があるそうです。

駐在所だより

幼児・老人・身体障害者を交通事故から守る運動

〔重点目標〕

○幼児の一人歩きや、路上遊びはやめさせましょう。

○老人と身体障害者に安全な交通ルールを身につけさせましょう。

○運転者は幼児や老人、身体障害者をみたら、必らず徐行しましょう。

〔交通安全教育の推進〕

①保護者教育

幼児に対する家庭での交通安全教育と保護義務観念を周知徹底するため母子交通教室を積極的に行ないましょう。

②老人、身体障害者

教育老人クラブや身体障害者団体が進んで交通教室を開きましょう。

③運転者教育

法令講習会の開催

○伊方地区

日時　九月二七日午後一時から

場所　伊方小学校講堂

○町見地区

日時　九月一八日午後七時半

場所　町見農業会議室

防犯

◎傷害、暴行の被害にかかったらすぐに警察に届けましょう。

また、これを見たり、聞いたりしたときも、すぐに届けましょう。

◎盗難にかかったときは、現場をそのままにして、すぐ警察に届けましょう。

◎小さい事件でも、すぐに届けましょう。

それは、大きな事件を解決する糸口になります。

◇（夜）（尿）（症）

子どもの夜尿症を心配しているお母さんが、少なくありません。

どうしたらなおるか、いろいろな説や薬がありますが、決定的なものはないようです。

なおるというよりは、眠っている脳じゅう、排尿したいですむようにするのではなく、尿意を感じて、目をさませるようにすることです。

もうもらすのではないか／もうあおないのではないか／と悩が気にして、十分に目をさませずにトイレにつれていってさせるのはかえって無意識の排尿を習慣つけることになります。

身体に異常はないが、親が神経質になりすぎてはいけません。

＝お礼＝

宮崎県延岡市中島町四丁目十九の一にお住いの尾上清春氏（大浜出身）より千円。

兵庫県高砂市北浜町西浜一一五三の四にお住いの西田君子さん（旧姓宮脇）＝大浜出身＝より千円、山口県下松市生野屋南豊作宅六の二九号にお住いの梶田一美氏（湯浦出身）より千円。

大阪府豊中市小曽根四丁目一五三七にお住いの渡辺幸雄氏（川永田出身）より千円。

大阪府吹田市江坂町三丁目八の七にお住いの天徳一久氏（大浜出身）より千円。

北九州市若松区西畑町九丁目にお住いの宮脇栄左門氏（川永田出身）より千円。

大阪府堺市中区黒町二丁目十五の四にお住いで林本工建設を経営されている林繁敏氏（中浦出身）より三千円。

大阪府東大阪市上小坂五一四〇の八にお住いで田上工務店を経営されている田上隆一氏（仁田之浜出身）より一万円。それぞれ広報編集の費用にと寄りいただきました。紙上より厚くお礼申し上げますとともに、ご健康と活躍をお祈り申し上げます。

人口

昭和44年7月末現在　世帯数　2,452戸

人口　9,663人（男 4,610人　女 5,053人）

婚姻

昭和44年7月1日～7月31日

出生

昭和44年7月1日～7月31日

死亡

昭和44年7月1日～7月31日

編集後記

良夜明月を賞する季節となりました。

広報も一一〇号を数えるにいたり九月号をこれにおとどけいたします。

今月号は、原子力発電所誘致対策委員会の発足をトップにもって行きました。

これで、地元の誘致体制ができあがったわけです。何の事業を行なうにも地元の協力体制がなくては、事業推進はできません。

この重要的な一大事業を成功させ、四国で随一の"第三の火"をともしたいものです。（Y・O）